



春 江 だ よ り

11 月 号

平成 25 年 11 月 1 日 (金)

校 長 市 原 俊 司

## 「ありがとうございます」「どういたしまして」

先日、落ちていた帽子を落とした子に届けました。すると、帽子を受け取った子は、私に、「ありがとうございます。とても助かりました。」と、ていねいにお礼を言ってくれました。「どういたしまして、ごていねいなあいさつ、ありがとうございます。」と私が答えると、その子はとてもうれしそうな顔で、また、礼をしてくれました。

他の人に親切にしたとき、ごく自然にかえってくる「ありがとうございます」という言葉は、親切にした人に「してあげてよかったな」「また、こういうことがあったらしてあげよう」という、とてもいい気持ちにしてくれます。

「ありがとうございます」の代わりに、「すみません」と言う人も少なくないでしょう。でも、やはり感謝の気持ちは「すみません」より「ありがとうございます」の方が、相手をもっとうれしくなるような気がします。

「ありがとうございます」の「ありがとう」は、もとをたどると、「あり難い」「有り得ない」という意味だそうです。

民俗学者の柳田国男先生が研究論文の中で解説しています。

「ここにあるのが、不思議なもの」という意味で、「人間の能力を超えた宇宙の森羅万象を讃えて言った」と言われています。

何かうれしいときに、「有り難う」と言っていたことが、時代を経て、お礼や感謝の気持ちを表す言葉になってきたようです。

フランス語の「メルシー」やイタリア語の「グラッチェ」にも「神の恵みを」という意味があるそうです。

外国の言葉でも日本語の「有り難う」と似た意味の言葉があるのですね。

相手がしてくれたことを素直に喜び、やさしく受け入れて、心から「ありがとうございます」と言えることは、とても素晴らしいことですね。

そして、相手から「ありがとうございます」と言われるような親切な行いや思いやりのある行動が、普段からとれるようになりたいものです。